

## 独歩の森(境山野緑地)

武蔵境駅北側に位置する小さな雑木林で、2005年4月に武蔵野市立緑地として開園しました。かつて地名が武蔵野村大字境字山野(さんや)だったことから『境山野緑地』と名付けられました。明治の文豪・国木田独歩の小説『武蔵野』の舞台となったことから『独歩の森』とも呼ばれ親しまれています。コナラやクヌギを中心とする、江戸時代からの豊かな生態系を育む武蔵野本来の雑木林で、今では市内でほとんど唯一の存在となっています。2025年9月に『民間の取り組み等によって、生物多様性の保全が図られている区域』として、環境省の自然共生サイトに認定されました。

## 武蔵野の森を育てる会

境山野緑地の開園に伴って設立された『緑ボランティア団体』です。武蔵野市緑のまち推進課との協働で、境山野緑地に豊かな生態系の雑木林を育てることを目的に保全活動を行っています。『独歩の庭』は、武蔵野らしい雑木林の原風景を残す貴重な『独歩の森』の保全を行っている『武蔵野の森を育てる会』の協力を得て開設しました。

## 国木田独歩

詩人 小説家  
くにきだ どんぼ 1871年～1908年

千葉県銚子生まれ。少年期を広島や山口で過ごし、東京専門学校(現早稲田大学)に進学。明治から昭和にかけて活躍したジャーナリスト・徳富蘇峰の影響を受け、彼が創刊した『国民新聞』に記者として勤務。1898年に発表した代表作の小説『武蔵野』では、瑞々しい筆致で自然美を描写し、文学と絵画に影響を与えた新ロマン主義の表現者。



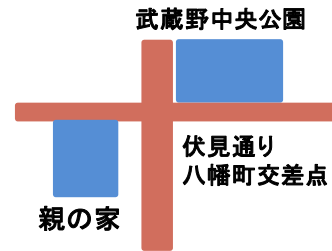
引用:  
国立国会図書館



『人に感謝する心と優しさに満ちた、誰でも受け入れていく温かい場、最期までその人らしく必要とされ自立して生きていける生活の場を目指しています』を理念に、生活リハビリと基本とした特別養護老人ホーム。家庭的な雰囲気ですっきりと暮らせる少人数制ユニットケアを採用。地域や家庭との結びつきを重視し、地域に暮らす多くの方を受け入れるデイサービスとショートステイによる居宅介護サービス、居宅介護支援も対応。



〒180-0011  
武蔵野市八幡町3-4-18



## Access

三鷹駅北口から  
関東バス「柳沢駅」行き「武蔵野中央公園」下車  
西武柳沢駅南口から  
関東バス「三鷹駅」「吉祥寺駅」行き「武蔵野中央公園」下車



公式  
ホームページ



公式  
フェイスブック



公式  
インスタグラム



地域のヒトと交流する  
武蔵野の自然と緑の大切さを学ぶ

親の家25周年記念事業  
八幡町ネイチャーウォーク  
緑と花の散歩道

入場無料



開場時間

11:00～14:30

開場日

月曜日～金曜日

(12月29日～1月3日を除く)

問合せ

0422-55-0507

